

## 江南市地域福祉計画策定委員会 議事要旨

会議名	平成 29 年度 第 3 回 江南市地域福祉計画策定委員会	
日時	平成 29 年 7 月 25 日（火） 午後 2 時～午後 4 時	
場所	江南市役所 第 3 委員会室	
出席者	委員	石川 勇男、岩根 佐代子、柏原 正尚、倉知 榮治、澤野 康樹 坪内 三、内藤 昇彦、永田 幸子、丹羽 義嗣
	市職員	丹羽 鈺貢、貝瀬 隆志、平松 幸夫、大池 慎治
	社会福祉協議会職員	小塚 昌弘、福田 和広、伊藤 光洋、宮本 清隆
欠席者	奥村 勝次、名倉 尚之、三ツ口 文寛	
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 団体ヒアリング結果について</li> <li>2. 施策体系（案）について</li> <li>3. 地域福祉計画骨子（案）について</li> <li>4. その他</li> </ol>	
資料	<p>資料 1 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画 団体ヒアリング報告書</p> <p>資料 2 施策体系一覧</p> <p>資料 3 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画計画骨子案</p> <p>参考資料 第 4 回江南市地域福祉計画合同策定部会 記録 第 3 回江南市地域福祉活動計画策定会議 議事録 第 2 回江南市地域福祉計画策定委員会 議事録</p>	

### ◆ 会議結果 ◆

#### 1. 団体ヒアリング結果について

- ・資料 1 に基づき、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所（以下「㈱ジャパン総研」）より説明がありました。
- ・会長より、資料 1 の 1 ページ、「(1) 調査目的」の 3 行目の「ヒアリング調査を実施しました」を、「アンケート調査を実施しました」に変えた方がよいというご指摘がありました。色々な方が見られるので、誤解を生まないようにしたいとのことでした。
- ・会長より、同じく資料 1 の 1 ページにある調査の対象団体の一覧について、高齢者支援（サロン）が半数近くを占めているため、件数が多い意見のニーズが高いとは一概には言えず、少数意見の中にも重要なものがあるかもしれないのご意

見をいただきました。委員の方が、普段の活動の中で感じていらっしゃることや、強調しておいた方がいいこと等があれば、ご発言いただきたいとのことでした。

- ・会長より、団体活動の内容について、支援が必要な方に対して自分たちの団体では担い切れていない、担い手不足であるという意見は残していただきたいというご意見をいただきました。
- ・会長より、地域福祉の性格からして、誰かにお願いして担ってもらうのではなく市が音頭を取ることが多いかもしれないが、市と社会福祉協議会が一緒につくる初めての計画であるため、全体でやっていくという雰囲気が出ればいいとのこと意見をいただきました。
- ・会長より、6ページに掲載されている色々な意見の中に、「情報」という言葉がよく出てくるが、情報は色々なところでキーワードになるため、どこに向けての情報なのかを整理した方がいいというご意見をいただきました。各団体が市や社会福祉協議会から提供してほしい情報と、市や社会福祉協議会が発信している情報にズレがあるのでないかというご指摘でした。情報が多過ぎるとかえって大変なので、必要など所に必要な情報が集まり、ここに言えば情報を発信してもらえするという機能を、社会福祉協議会や行政に担ってもらいたい、それが連携にも繋がるのご意見でした。
- ・澤野委員より、地域福祉を考えるにあたって、各個人や家庭を対象にしているのか、それとも団体を対象にしているのか、今回の調査は団体を対象にしているが、団体に対する方策を考えていくという方向で進んでいるのか、というご質問がありました。それを受けて、会長より、本日の議題の一つめが団体ヒアリングの結果になっているため、今その議論をしているが、基本的には既存の団体についてだけでなく、広く地域住民全体が担い手になり、お互いに支え合う仕組みづくりを新たに考えていくのが地域福祉計画であるという回答がありました。既存の団体に担いきれていないものを把握するため、ヒアリング調査を行い、その結果を今日お示しいただいているというご説明でした。昨年度の会議では個人の立場や所属している団体の立場も含め、身近なところに課題がないか、また、江南市の魅力についても議論し、まとめていただいているとのことでした。課題ばかりだと未来がしぼんでいくようだが、江南市の魅力をさらに高めていくため、未来志向のものを入れていこうと取り組んだのご説明がありました。
- ・会長より、意見をまとめると江南市全体の傾向のように感じてしまうが、サロンや団体は地域によって多いところと少ないところがあり、偏ってしまうのは否めないのご指摘がありました。団体が足りないところに重点的に支援が必要だと感じられるなら、地域別の様々な支援を考えねばならないのご意見でした。
- ・丹羽委員より、6ページの一番下に「現在委託している地域包括支援センターを江南市社会福祉協議会に一本化して公正中立な地域包括ケアをつくりあげてほし

い」とあり、それぞれの地域包括センターは連携を取りながら同じような動きをしていると思うが、このような意見が出るということは問題ではないかとの指摘がありました。それを受けて、会長より、誰の意見かによって受け取り方が変わってくると思うが、文面通り捉えると、各地域包括支援センターの方向性は同じだとしても、それぞれの地域性に基づいた事業や取り組みを行うため、山の登り方が違うということではないかとのご意見がありました。地域包括支援センターを社会福祉協議会に一本化し、事業や取り組みに偏りを出してほしくないという意見の場合と、今現在それぞれやっているが何となく疑問を持たれている場合の2通りあり、前者の場合は自分の地域が損をしていると感じているかもしれないとのご説明でした。それを受けて、丹羽委員より、同じように取り組んでいると言っても地域によってやるのが違うため、ニュアンスとして出てくるのではないかと、地域について、もっと私たちが理解しなければならないとのご意見をいただきました。それを受けて、会長より、社会福祉協議会とのつながりは強く、そこに一本化すると全体として一律でやれるのではないかという思いを持っていたらっしゃるかもしれない、公平感が出るような取り組みがされるように、行政から地域包括支援センターと社会福祉協議会に、市民からこのような意見があったことを伝えていただきたいとのご要望がありました。

- 永田委員より、地域包括支援センターに関しては、江南市に限らず、全国的に色々なご意見をいただいております、公正中立について指摘される立場にあり、メディアの影響も受けながらの意見ではないかとも感じる、周知不足のところは反省している、体制も強化しなければならないとのご説明がありました。
- 会長より、色々な取り組み方があると思う、地域包括支援センターに集約していくことは厳しい状況だが、あまり社会福祉協議会に流れ過ぎてもいけないとのご意見がありました。他の団体が担っている部分を集約することで、団体の活動がしぼんでいくようなやり方はよくないが、団体に背負わせ過ぎてパンクしてしまうのもよくない、このバランスは地域性によるところがあるとのご説明でした。他市の状況を見ても地域包括支援センターの数が違い、江南市は大きく3つに分かれている、今後については議論が必要であるとのことでした。
- 岩根委員より、子どもに関わる活動をしており、子育て家庭の内容に目が行くが、9ページの下から2つめ「支援が必要な対象」と「理由」のところ、「情報はあふれるほどあるのに、どれを選べばよいか分からない」とあり、困っているところに必要な情報が届いていないと感じるとのご意見をいただきました。情報という1つのツールの問題だと思うが、情報を集め過ぎて頭でっかちになり、自分の子育てに必要な情報の取捨選択ができていない親へのサポートの必要性を感じるとのことでした。また、極端に情報がなく困っている親もいるが、そのような家庭の場合は虐待やネグレクトにつながっていく可能性があるとのご指摘もいただ

きました。地域福祉の中で、落ちこぼれをつくらないように支援をしていく必要があるとのご意見でした。

- ・会長より、地域の活動を支援する場合、「何でも行政に任せればいい」という考え方ではよくないが、だからと言って、地域住民がお互いに担い合うことに頼りすぎるのもよくない、とのご意見をいただきました。住民が担い合ってやっていけそうなことなのか、行政や周辺機関が担うべきことなのか、整理ができればいいのではないかとのご意見でした。
- ・会長より、子育てについては、他の子どもと自分の子どもを比べてしまう保護者の場合は、情報が多くても困ってしまう方が多く、選択肢があまり多くない方がいい場合もあるとのご意見をいただきました。そのようなときに、地域に寄り添ってくれる方がいいが、地域の人に知られたくない場合もあり、専門機関へすぐにかかれるようにする方が、生活しやすくなるかもしれないとのご意見でした。ただ、住民同士が少しずつ支え合うために、気軽に集まれるサロン等があればいいのではないかとのご意見でした。
- ・副会長より、アンケートの中でも社会福祉協議会が何をやっているか分からない人が多いことにショックを受けた、必要な情報を分かりやすく、どのように提供していくかが、計画を策定する上で一番重要な部分ではないかと思うとのご意見をいただきました。
- ・会長より、人と人が顔を合わせて大丈夫な部分は住民同士の支え合いをイメージできるが、自分の事情を周りに知られたくない場合や、公的な支援を受けながら地域生活を営みたい場合は、専門機関につながった方がいい場合もあるとのご意見をいただきました。江南市にも地域性があるため、住民同士で顔を合わせることで暮らしやすさにつながるかと言えば、そのような地域ばかりでもないというご説明でした。
- ・会長より、11 ページに「他団体との連携について」という項目があるが、連携し過ぎると、会議や情報が増え、担い手が育ちにくいという話も聞く、本当に必要な連携は何かを整理する必要があるとのご意見をいただきました。連携を取りたい組織・団体の上位に、社会福祉協議会や行政があるのは、いいのか悪いのか微妙なところだが、これらとつながることで団体が孤立化しないのは、いいことだと思うとのご意見をいただきました。
- ・岩根委員より、自分が所属している子育て支援団体は、いくつかの団体や個人と連携をしながら1年間活動をした、今年度はその方たちと一緒に新たにイベントを開催することができた、活動の中で連携が必要なことは誰もが重々承知していると思うとのご意見をいただきました。自分たちの活動がある上で、できることならやろうというスタンスの緩やかな連携にほどよさを感じたとのご意見でした。お互いを知りながら、お互いの活動を尊重することができれば、一番いいと思う

とのご意見をいただきました。

- ・会長より、年に1度のつながりの緩やかな連携もいいと思うとのご意見をいただきました。支援が必要なのでもう少し頻繁に会う機会がほしいという団体もあるかもしれないし、どこともつながっていないのも大変である、イベントは一つのきっかけになるだろう、せっかくなのでイベントの際には主催する側も交流ができるようにすることがポイントであるとのご意見でした。
- ・事務局より、参考資料をもとに、団体ヒアリング結果について、第4回江南市地域福祉計画合同策定部会、第3回江南市地域福祉活動計画策定会議での議論内容のご報告がありました。

## 2. 施策体系(案)について

- ・資料2に基づき、㈱ジャパン総研より説明がありました。
- ・副会長から、施策体系の基本目標1から5は、国や県の仕分けにならっているかとのご質問がありました。それを受けて、㈱ジャパン総研より、国や県からの明確な指針があるわけではなく、自治体側に任されているところが大きいとの回答がありました。江南市の特徴を踏まえていることはもちろん、課題としてアンケートに挙がっていないなくても、やらなければならないこと、例えば、どのまちでも共通の課題である生活困窮者の自立支援等は国からも取り組むように指示があるとの説明でした。
- ・会長より、基本目標は抽象的で心地よい響きの言葉が並んでしまいがちなため、必ずしも、この言葉が適切かは分からないとのご意見をいただきました。色々な課題がある中で、今取り組んだ方がいいものについて5つに色分けして整理していただいたが、誰が見ても分かりやすい言葉の方がいいので、違和感があるところについてはご意見をいただきたいとのことでした。
- ・会長より、基本目標2と基本目標3の違いが気になることのご指摘がありました。「基本目標3 支援の輪をひろげ、つながる」では、住民中心のイメージだが、具体的な取り組みイメージの中に、専門機関が多く入っているため、分かりにくいとのご意見をいただきました。
  - ・会長より、基本目標2の「施策の方向性4 市民が活動・交流できる場の提供」の中で、これまで取り組んできたことを、さらに広げていくような内容は、「基本目標3 支援の輪をひろげ、つながる」に入れてもいいのではないかとのご意見をいただきました。「基本目標2 市民協働で福祉を進める」は、「進める」とあるので、今あるものを一生懸命に頑張り、足りないところを補てんするというイメージだが、「施策の方向性4 市民が活動・交流できる場の提供」は、活動を広げていくイメージのため、「基本目標3 支援の輪をひろげ、つながる」に入れる方がいいのではないかとのご説明でした。それを受けて、㈱ジャパン総

研より、施策の方向性の目的をどう色付けするかによって、どの基本目標の下に入るかが変わってくるとの回答でした。基本目標2の「施策の方向性4 市民が活動・交流できる場の提供」については、再考の余地があるとのことでした。

- ・会長より、「基本目標1 支え合い、助け合いの心を育てる」では、今まで社会福祉協議会が中心に行ってきた福祉教育が前面に出ていると思った、また、具体的な取り組みイメージに「市広報」や「社会福祉協議会だより」という言葉もあり、既存の取り組みを前面に出し、さらに強調していくというイメージを持たせたのご意見をいただきました。
- ・会長より、「基本目標3 支援の輪をひろげ、つながる」は、住民が中心というイメージがあるため、地域包括支援センターや基幹相談支援センターのような専門機関に関することは「施策の方向性4 地域の情報を支援につなげる仕組みづくり」に入れてはどうかのご意見をいただきました。施策の方向性2と3の工夫次第で内容を整理できるとのことでした。
- ・会長より、「基本目標4 社会的孤立を防ぐ」では、現在取り組んでいることだけではなく、今後本格的に取り組まねばならないものも入っている、地域に応じて多い少ないがあるので、工夫が必要であるのご意見をいただきました。第1次の計画なので既存の事業にしっかりと取り組んでほしいとのことでした。
- ・会長より、「基本目標5 安心して心豊かに暮らせる地域をつくる」とあるが、江南市は「暮らしやすい生活都市」と掲げているので、その部分との整合性を強調した方がいいのご意見をいただきました。地域福祉計画は、総合計画の基本計画とどう連動させるかが大切であり、第4章までに入り切らなかった内容を第5章に入れていくと、全体を網羅しやすくなるとのことでした。防災やバリアフリーも基本目標5でいいと思うが、権利擁護については基本目標4に入れてもいいかもしれないとのことでした。
- ・澤野委員より、困っている人への対応については今もやっていると思うが、それをこの計画全体に組み直していくことに、どのような意図があるのかというご質問をいただきました。今すでにあるものが全く足りないのか、機能が果たされていないのか、それを改善することが意図としてあるなら理解できるとのことでした。その解決のために、市ではなくボランティアグループ等がやっていく方がいいということであれば、どのような考えで、どこまで必要としているのかが、よく分からないのご意見でした。
- ・澤野委員より、地域の個人として困っていることがあれば、それに対応することが載っていないかと広報を読むが、そうでなければ読まない、ほとんどの人がそうだと思うのご意見をいただきました。市民に何かを求めているのであれば、それが分かるようにしてもらいたいとのことでした。地域の方から相談を受ければ、組長等の立場として市役所に連絡したり、具体的な団体を知っていれば、そ

こへつなげることができるが、相談されなければそれまでである、自分は何をすればいいのかがよく分からないとのことでした。基本目標2に「施策の方向性3 小地域福祉活動の推進」とあるが、よほど周知して市民の理解を得ないと何もできないのではないかとのご意見でした。

- ・会長より、今までは社会福祉協議会を中心に取り組んでいたが、行き届いていなかったところを強化しようとする表れが基本目標1であるとのことをご意見をいただきました。地域福祉計画の策定は江南市としては初めてだが、社会福祉協議会が、これまでに2回、地域福祉活動計画を策定をしているとのことでした。今までしてきたことを踏まえ、その引継ぎとして基本目標1に表していると理解しているとのことでした。緩やかでも住民の連帯はなくしてはいけない、福祉教育として横のつながりが必要である、心を育てる、これらは江南市でもやるべきだというメッセージが基本目標1に入っていると感じたとのことでした。施策体系だけでは分かりにくいので、実際の計画書では一つひとつ詳しい説明をしていくが、今日の会議では施策体系に組み替える方がいいものや、内容として見落とししているものがないか、チェックしていただきたいとのことでした。
- ・会長より、高齢者や障害者の計画の他に、地域福祉計画を策定する理由の一つが、計画の隙間に抜け落ちる取り組みがないようにするためであるとのことご説明がありました。江南市で初めて計画を立てるにあたって、皆さんの共通認識として、これだけは絶対にやるというものがあれば一番上に持ってくることができるが、なかなかそこまでいかないとのことでした。色々なところで、色々な取り組みをされているので、既存の取り組みを中心に固め、今後のことは基本目標4、もう少し広いところでは基本目標5に入れるのがいいのではないかとのご意見でした。地域福祉を取り巻く現状と課題を付けていらっしゃるので、そこも踏まえて確認する方がいいかもしれないと思うとのことでした。
  - ・丹羽委員より、私と倉知委員は民生委員という立場でこの会議に出席しているため、3ページ、基本目標2の施策の方向性2の中の「民生委員・児童委員活動の活性化」「民生委員・児童委員活動への支援」や、5ページ、基本目標3の施策の方向性4の中の「民生委員・児童委員による地区の実態把握支援」「協議体の設置」が非常に気になることをご意見をいただきました。3ページについては具体的にどのようなことを考えているのかをお聞きしたいとのことでした。5ページについては協議体を設置するにあたっての民生委員の動きについて、ご質問がありました。民生委員は、全国組織であり、今年度からは地域づくりを一番の主題においている、趣旨からいけば全く同じだが、我々としてはこれ以上何をしていけばいいのかわからないとのことでした。民生委員はヒアリングを受けたことがない、民生委員について、どこまでご理解していただいているのかという不安もあるとのことでした。それを受けて、ジャパンインターナショナル総合研究所より、

5 ページの「施策の方向性 4 地域の情報を支援につなげる仕組みづくり」については、色々な課題を抱えている方が埋もれてしまわないように、民生委員・児童委員による訪問等で、地区の実態を把握していただいているので、地域で情報収集をしながら課題を拾い集めるという趣旨になっているとの説明がありました。また、関係機関が地域の情報を共有しながら解決の方向性を探る場が協議体であり、その設置に向けた動きをしていくため挙げさせていただいたとの回答でした。

- ・会長より、施策体系については、団体と話をした上で出ている施策もあれば、そうでないものもあるかもしれない、確認が必要であるとのことでした。違和感があり、根拠を知りたいことがあれば、この場でご意見をいただきたいとのことでした。今日、事務局側から回答ができなくても、確認作業をすることが計画づくりには必要であり、その作業をしないと、地域と一緒につくったというイメージにはならないとのこといただきました。意見は吸い上げられるが、実際に吸い上げられた意見がどう計画に生かされたのかは市民には分かりづらい、団体ヒアリングに挙がっていた小さな意見についても丁寧に対応するほうがいいとのことでした。
- ・事務局より、民生委員さんの力は大きいので、今やっているなかで、ぜひお願いしたいとのことでした。
- ・丹羽委員より、我々は元より民生委員なので地域福祉は頭から離れることはない、150 名程の民生委員は老若男女色々であり、学校のように一律の教育を受けているわけでもなく地域性も当然違う、それぞれがそれぞれの立場で頑張っている活動しており、より活動しやすくしていただけるなら非常にありがたい、お声がけをしていただいて感謝しているとのこと感想をいただきました。
  - ・会長より、既存のものは全て続けて、新しいものを追加するとなると大変である、新しいものを追加するなら、今までのものは整理すべきである、削るところと強化するところは、常に考えていかなければならないとのこといただきました。計画づくりや計画の前段階で、調査等で挙がってきていない取り組みは抜け落ちてしまいやすいとのことでした。ヒアリングやアンケートを書く際に、ご意見をいただきたいとのことでした。
- ・事務局より、参考資料をもとに、施策体系（案）について、第 4 回江南市地域福祉計画合同策定部会、第 3 回江南市地域福祉活動計画策定会議での議論内容のご報告がありました。

### 3. 地域福祉計画骨子(案)について

- ・資料 3 に基づき、(株)ジャパン総研より説明がありました。
- ・澤野委員より、地域共生社会として、行政の丸抱えではなく、地域の共助を進めていくための計画だということが理解できたとのこと感想をいただきました。



- ・澤野委員より、基本目標1については、広報紙はなかなか読まれないため、広報紙をつくるだけでは広報にならないのが現状であるとのことをご意見をいただきました。イベントを開催しても関心のある人たちしか来ない、関心のない人はいつまでたっても引っかからないとのことでした。
- ・澤野委員より、基本目標1の施策の方向性1の「施策3 福祉教育の推進」をするのは主に学校であり、地域福祉というよりも福祉全般である、子どもに教育をして理解を深めさせることは大事だが、地域福祉の共助を進めていく上ですぐ効果があるかという、それは期待できないとのことでした。それを受けて会長より、今までやってきたことを示すのが基本目標1であるとお伝えしたつもりだったが、福祉教育については色々な考え方があり、学校教育の中でやっていることもあれば、地域福祉の中でやっていることもあり、地域福祉の中でやっていることを中心にしようという動きがあるとのことご説明がありました。
- ・澤野委員より、「地域福祉」の「地域」がいないと思うとのことをご意見をいただきました。基本目標1の施策の方向性2の施策1の具体的な取り組みイメージに「あいさつ運動」があり、先日小学校のあいさつ運動に行ってきたが、学校以外であいさつ運動をやっている地域があるのかというご質問をいただきました。また、一般の人間にいかに関わってもらい、理解してもらうかの取り組みがないように感じたとのことをご意見をいただきました。広報は重要だが、あまり効果的ではなく、現状をどうしていくかを考えないといけないとのことでした。施策体系を見る限りは、現状やっていることばかりで、何かが変わる可能性を感じないとのこと感想をいただきました。
- ・会長より、本当に魅力的な情報を発信しているのか、必要な人が必要な情報を得やすくなっているのか、細かいところはこれからだと思う、計画に細かい手順まで全てを載せるわけにはいかない、つくった段階でその項目に従って、動こうとする方が動きやすくなるように計画をまとめるべきだとのことをご意見をいただきました。少々いびつでも、絵に描いた餅にならないように、重点プロジェクト等をもっとパンチの効いたものにできればいいとのことでした。
- ・永田委員より、地域包括支援センターの公正中立の話と共通するが、市のご返答に「計画に掲載しているプロセスの過程の中で整理していく」とあるが、課題が分かっていないのではないかとのご意見をいただきました。色々な意見をきちんと分析しないと課題として挙がってこないと思う、また、アンケートやヒアリング結果の掲載の仕方も気になるとのことご意見でした。分析して課題をしっかりとまとめた状態で基本的な考え方に持っていかないと、本当に規格通りの内容の計画になってしまいそうである、今日出たご意見についても課題なのかどうかきちんと分析していただいてから計画に載せていただきたいというご意見をいただきました。

- ・会長より、自分たちで生活ができるから大丈夫とあって、市や社会福祉協議会との関わりがない方の意見は取り入れにくい状況であり、それを追いかけて調査をするのは大変であるとのこと意見をいただきました。間違っても意見を言えるような雰囲気をつくるのが大事であるとのことでした。専門家が間違っただけを言うのはよくないが、中身が乱暴でも、色々な意見を取り込んで計画をまとめていくことで江南市の現状を表すことができるとのことでした。アンケートについても、体裁を整えるためにきれいに整理してしまうことはあるかもしれないが、計画は計画としてしっかりつくるが、かっこいい情報が並ばなくても、色々な意見が出たということは記録に残していただきたいとのことでした。
- ・事務局より、参考資料をもとに、地域福祉計画骨子（案）について、第4回江南市地域福祉計画合同策定部会、第3回江南市地域福祉活動計画策定会議の議論内容のご報告がありました。
- ・会長より、地域活動に外国籍の方が積極的に参加されているところもあるのかというご質問がありました。それを受けて事務局より、福祉課の担当業務として、愛知県赤十字が外国籍の子どもを取り込んでリーダーを育てようという活動をしており、江南市でも外国籍の方で今後リーダーになっていただけそうな方と接触を図りながら、外国籍の方に地域活動を広げていくことができると考えているとの回答でした。

#### 4. その他

- ・事務局より
  - ①次回の会議日程について
    - 9月26日（火）第2回を開催予定
  - ②お知らせ
    - 1月14日（日）地域福祉推進シンポジウム

終了